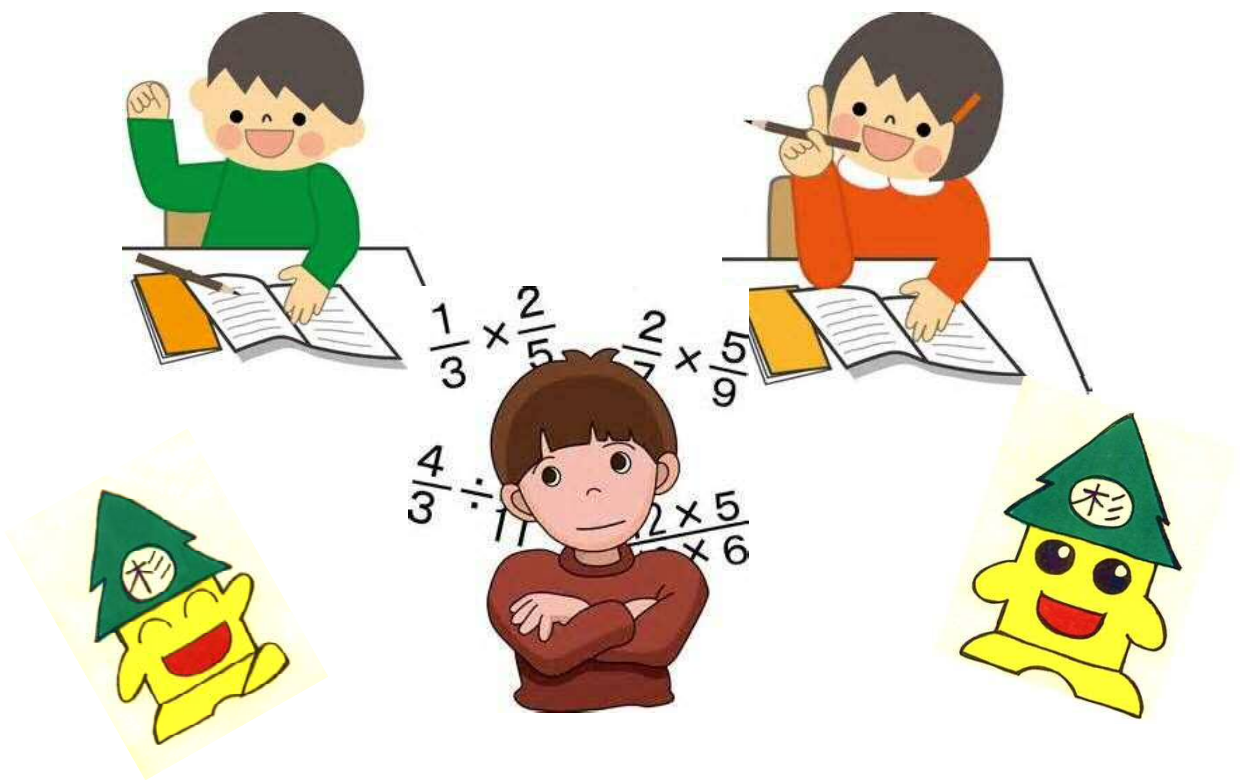


平成27年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



海老名市立杉久保小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6
(資料) 学習・生活習慣と学力との関係	P. 7



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。

なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《よかった所》

- 「漢字の読み」では、「招く」「信念」がよく読めている。
- 「読むこと」では、物語の登場人物の相互関係をとらえることができている。
- 「書くこと」では、具体的な事例を挙げて説明している文章を選択することができる。

《努力を要する所》

- 「漢字の読み」では、「承知」が読めていない児童がおり、「漢字の書き」では、「楽」「病院」が書けていない児童が多い。
- 「読むこと」では、「引用」の意味が理解できず、問題の条件に合わせた文章の一節や文、語句などを本文から引くことができていない。
- 「読むこと」では、問題文や資料を注意深く読んでいない。また、「必着」という語句の意味が「～までに届く」ということをとらえられていない。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《よかった所》

- 「書くこと」では、新聞の目的や意図を正しく読み取り、適切な見出しを選択することができる。
- 「読むこと」では、目的に応じ、文章と図とを関連づけて読み取ることができる。

《努力を要する所》

- 「書くこと」では、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことや、文章と図とを関連づけて自分の考えを書くことができていない。
- 「読むこと」では、登場人物の行動をもとにして場面の移り変わりをとらえることができていない。



今後の具体的な取組

- 「漢字の読み・書き」は、国語学習の基礎となるので、授業や家庭学習等で日頃から活用する意識をもたせる。例えば、授業では日記・作文・新聞などで積極的に漢字を使う指導をし、宿題では漢字を使った短文づくり等を出す。
- 「読むこと」は、国語辞典を引くだけでなく、読書や新聞の活用、また、授業中や普段の会話の中で教師が多様な類義語を紹介するなどして、児童の語彙力を広げさせたい。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《よかった所》

- 「数と計算」では、分数の計算がよくできている。特に、異分母の分数の減法の計算は正答率が高い。
- 「量と測定」では、日常生活の中で必要となる時刻を求めることがよくできている。また「数量関係」では、グラフに表されている事柄を読み取ることができている。つまり、実生活で活用場面があるものに対しては理解が深い。

《努力を要する所》

- 「数と計算」では、単位となる小数の幾つ分で小数の大きさを表すことができない。数の概念が身についておらず、機械的に計算している。
- 「図形」では、円や二等辺三角形の性質を理解できていないため、底角の大きさを求めることができていない。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《よかった所》

- 「量と測定」では、数量の大きさを比較するのに、単位量当たりの大きさを活用して、目的に応じた買い物の仕方を考え、代金を求めることができている。
- 「図形」では、長方形の面積を2等分する考えをもとに、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を根拠を明らかにして、論理的に考え、説明することができている。

《努力を要する所》

- 「図形」では、平行四辺形の作図に用いられる、図形の約束や性質を理解できていない。
- 「量と測定」では、最終問題までたどりつけなかったのか、無解答が目立った。また、与えられた条件を変更したとき、示された面積を前の条件を活用して面積を求めることができていない。

今後の具体的な取組

- 「数と計算」では、形式的に処理することはできる。しかし、整数や分数、小数などの数の仕組みを理解できていないため、数の大きさをイメージすることが苦手である。そこで、ブロックや図などを用いて「5.21」という小数が0.1や0.01の何個分なのかを置き換えて考えさせる指導をする。
- 「図形」では、図形の性質を理解できていない。「なぜ」を繰り返し問い返すことで、図形の定義・定理と結びつけ、作図に生かしていきたい。また、場面や数値などの条件を変えても、授業で学習した考えを生かせる姿勢を育てる。

理科に関する調査結果

《よかった所》

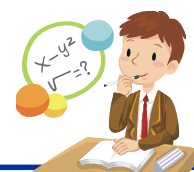
- 「観察・実験の結果を整理し考察すること」については、実験から得られたデータと現象を関連づけて考察することがよくできている。
- 「科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすること」について、「水蒸気は水が気体になったものであること」がよく理解できている。
- B区分の「生命」に関する問題の正答率が全体的に高い。

《努力を要する所》

- 水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係を示したグラフをもとに、析出する砂糖の量を定量的にとらえて考察することができていない。
- 実験器具の取り扱いについて、メスシリンダーで一定量の水を量り取る適切な扱い方が理解できていない。

今後の具体的な取組

- B区分の「生命」に関する問題の正答率が高かったが、これは質問紙の結果の「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答した児童の割合が高かったことと関連していると思われる。杉久保小学校は子どもの森や池があり、自然に恵まれた環境である。今後も森を整備し、児童が自然と親しむことができる環境づくりに努めていく。
- 生活経験をもとに思考することはよくできているので、生活の中であまりなじみのない自然事象についても、より深く思考させる授業展開を工夫していく。
- 実験器具の基本的な扱い方をしっかり指導する。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができますかの設問では聞く、どちらかというところを合わせると約93%と高い。
- 国語の勉強は好きですかという設問では、好きどちらかというところを合わせると約64%で県、全国の平均を上回っている。

《課題と思われる所》

- 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますかの設問では、思う、どちらかというところを合わせると割合が約60%と県や全国平均を下回っている。
- 算数の問題で、言葉や式を使って、わけや求め方などを書く問題に対して、苦手としられている児童の割合が県や全国平均より高い。
- 国語、算数、理科の調査問題で解答時間が足りなかった、やや足りなかったと答えた児童の割合が県や全国平均より高い。

生活について

《よかった所》

- 家で学校の宿題をしていますかの設問では、している、どちらかといえばしているを含めると、約99%と非常に高い。
- 学校の決まりを守っていますかという設問では守っている、どちらかといえば守っていると答えた児童は、合わせて約94%で県や全国平均を上回っている。

《課題と思われる所》

- 一日当たりのテレビやビデオ、テレビゲームなどをする時間で2時間以上の割合（特に4時間以上）が高く、改善が必要とされる。
- ふだん（月～金）一日当たりの読書時間では30分未満が、約73%と高く、読書時間が少ない。
- 家で学校の授業の予習、復習をしていますかの設問では、している、どちらかというところの割合が40%以下で県や全国平均より低い。

今後の具体的な取組

＜学習面＞

- 日々の授業の中で、話し合い活動や調べ学習を多く取り入れ、自分の考えを文章にしてまとめたり、発表したりするなどの、言語活動を充実させていく。
- 言語活動を充実させるために、今まで以上に読書活動を教育活動に取り入れる。
- 家庭学習を充実させるために、学年の発達段階を踏まえ、系統的な学習のあり方を検討する。その際、保護者の理解と協力を得るため、連携を十分図るようにする。

＜生活面＞

- 携帯電話やスマートフォンの子どもへの与え方や使用の仕方について、学校でも指導を行うのはもちろんのこと、あらゆる機会をとおして保護者への働きかけに努める。



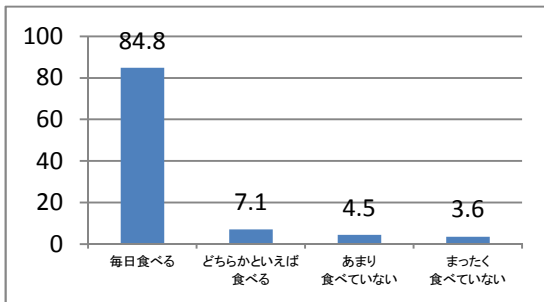
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 毎日、家で朝食をとりましょう。

就寝時間、起床時間を決め、しっかりと朝食をとって学校に登校させてください。

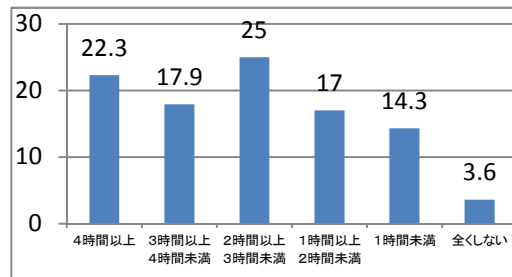
朝食を毎日食べていますか。



2 テレビやビデオ・DVDなどは、時間を決めて見たり、聞いたりしましょう。

夜遅くまでテレビやビデオを見たりすることがないように、規律ある生活を心がけてください。

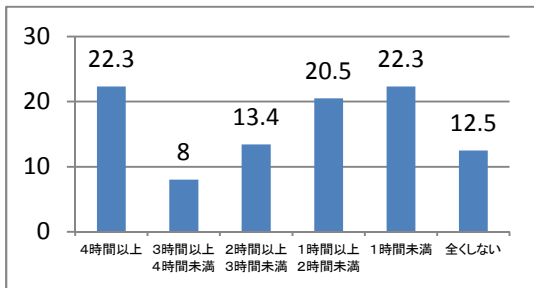
普段一日当たりどれぐらいの時間、テレビやビデオなどを見たり聞いたりしますか。



3 テレビゲームやコンピューターゲームなど、時間を決めてやりましょう。

家庭内でゲームをする時間を決めるなど、ルールを守るようにすることが大切です。

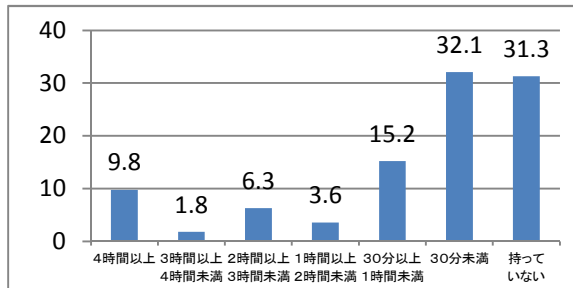
普段一日当たりどのぐらいの時間、テレビゲームなどをしますか。



4 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時のルールを家庭で決めましょう。

携帯電話やスマートフォンなど、安易に与えることがないように気をつけましょう。与える場合でも、必ずルールを決めましょう。

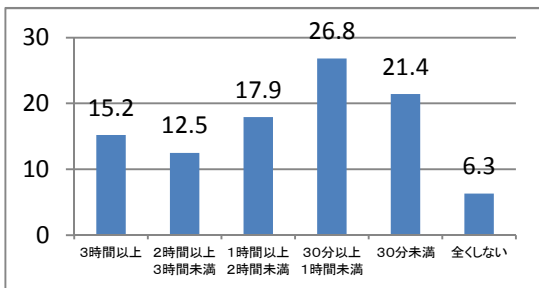
普段一日当たりどれぐらいの時間、携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



5 毎日、家庭学習の時間を決めて勉強しましょう。

毎日の積み重ねが学習の定着につながります。無理のない家庭学習の時間を決めて、習慣化させましょう。

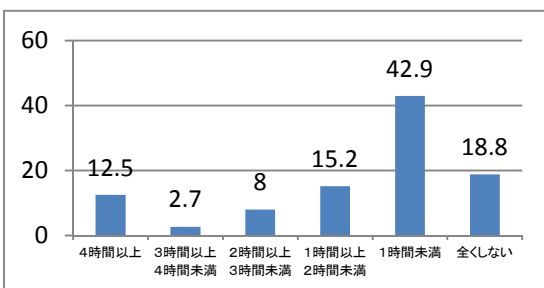
普段一日当たりどのぐらいの時間、勉強をしていますか。(学習塾を含む)



6 学校が休みの日も、家庭学習の時間を決めて予習や復習などをしましょう。

宿題だけでなく、予習、復習、読書など、学年に応じて実践できるようにしましょう。

学校が休みの日に、一日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか。(学習塾を含む)



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月